

居場所の現状と課題、及び提言

- 居場所づくりにおける理念と大切にしたい視点 -

● こども・若者の居場所づくりにおける理念

心身の状況、置かれている環境等にかかわらず、こども・若者の権利の擁護が図られ、将来にわたって幸福な生活を送ることができることを目指す。

*こども基本法及び、こども政策の新たな推進体制に関する基本方針に定められている理念に沿って作成

● こども・若者の居場所づくりにおいて大切にしたい視点



- 居場所づくりにおいて重要なことは、**こども・若者の主体性の尊重**である。
- その場を居場所と感じるかどうかなど、本人が決めることである。
- そうした観点から、**こども・若者の声（視点）**を軸に「行きたい・居たい・やってみたい」の3つの視点で整理した。*こども・若者の声には相互に矛盾するものもあるが、多様な居場所づくりにおいてそれぞれ尊重したい視点であるため、そのまま記載した。居場所が求められる根拠として受け止められることを願う。

“行きたい”

- 誰でも行けること
(年齢や障害等で利用の制限がないこと)
- 自分を受け入れてくれる誰かがいること
- 身近にあること
- 気軽に行ける、一人でも行けること
- いつでも行けること
(こども・若者自身が行く時間を選べること)
- お金がかからずに行けること
- 行くきっかけがあること

“居たい”

- ありのまま、素のままでいられること
- 居ることの意味を問われないこと
- 誰かとつながれること
- 誰かとコミュニケーションできること
- 話を聞いてくれること
- 信頼できる人、味方になってくれる人がいること
- 助けてほしいときに、助けてくれる人がいること
- 気の合う人がいること
- 安心・安全な場であること
- くつろげる環境が整っていること
- 別の目的を持った人がいても、同じ空間にいられること
- 一人で居ても気にならないこと
- 過ごし方を選べること
- 居ただけ居られること

“やってみたい”

- あこがれを抱ける人がいること
- いろんな人と出会えること
- 一緒に学ぶ人、
学びをサポートしてくれる人がいること
- 好きなこと、やりたいことができること
- いろんな機会があること
(興味や希望に沿ったイベントがある)
- 新しいことを学べること
- 未来や進路を考えるきっかけがあること
- 自分の意見を言える、聞いてもらえること
(自分の意見が反映されること)
- 自分の役割があること